

## オーディオ実験室収載

### iPhono の活用(6) —カートリッジの負荷調整(3)—

#### 1. はじめに

前報(5)に引き続き Ortofon 系以外のカートリッジについて実施します。

#### 2. カートリッジの負荷インピーダンスの調整の方法

今回使用したカートリッジは次のものです。

FR FR1 Mk3 (針圧 2.5g) 写真①

FR FR7 (針圧 2g) 写真②

DENON DL-103 (針圧 2.5g) 写真③



FR1 Mk3 (写真①) は負荷インピーダンス  $10\Omega$ 、FR7 (写真②) は負荷インピーダンス  $3\Omega$ 、DL-103 (写真③) はインピーダンス  $40\Omega$  とあったので、これらの数値を参考に負荷インピーダンスを設定し、前報(6)同様、SPU Synergy (針圧 3.5g) をリファレンスとして聴きこんでいきました。

なお、ターンテーブルは LP12、アームは FR64S でフォノケーブルは LINN のケーブル、iPhono からの引き出しにはリベルメンテを使用しています。

#### 3. カートリッジの負荷の調整の試聴結果

FR1 Mk3 では負荷  $22\Omega$  で違和感なく動作しました。少しゲインが低いので +6dB アップしました。記憶にある FR1 Mk3 らしい力強く押し出し感のある音がして Ortofon 系や EMT のカートリッジとはまた別の流れの音です。  
一方、FR7 と DL-103 は長年使用していなかったので、断線か接触不良か理由は分かりませんが、音が出ませんでした。

#### 4. まとめ

**FR1 Mk3**について負荷インピーダンスの調整ができました。

以上